

# くれたけイン大阪御堂筋本町

Kuretake Inn Osaka Midosuji Hommachi  
(大阪府大阪市)



本日は、大阪の名所である通天閣、道頓堀、心齋橋筋などを巡った。驚いたことに、どこもインバウンド、すなわち外国人だらけである。それもそのはず、最新号のプレジデント誌によれば、大阪は世界で最も観光客が増加した都市なのだそう。日本独特、いや大阪独特のド派手な雰囲気外国人を魅了しているのだろうか。

今回紹介するのは、心齋橋筋、本町にほど近いビジネスホテル「くれたけイン大阪御堂筋本町」である。大浴場がある安価なホテルを探していたら、最近オープンした真新しいホテルを見つけたので、予約をした次第である。

このホテルの良いところは、「一杯飲める」ことである。どういうことかということ、チェックイン後の18:00~20:00の時間帯に、1階のオープンスペース(朝食場所)で生ビール、ワインなど自分が好きな酒が無料でコップに一杯だけ飲めるのである。生ビールが注げるビールのグラスに何を入れても良いわけで、酒飲みの私は思わず濃い酒(赤ワイン)を選んでしまった。コップになみなみと注いだワインの量は、300ml 近くはあったと思う。フロント前にはおつまみの販売もある。風呂

上がった酒はうまい。ウィップ。

さて、くれたけイン大阪御堂筋本町の酒、いや風呂であるが、1階にある。女風呂は、フロントで客室のカギを差し出すことで受け取れる風呂のカギがないと、脱衣室を出入りできないので注意が必要だ。

脱衣室にはコインの要らないロッカーが8個あり、洗面台2個、ヘアドライヤー2個の他に、髭剃り、綿棒、歯ブラシ、櫛などのアメニティーがそろっている。全自動の横型ドラム型洗濯機も、利用料はかかるが、2基設置されている。

最近使い捨てプラスチックの問題が注目されているが、ホテルのアメニティーもそろそろ考え直す時が来ているように思う。髭剃り、歯ブラシなどの使い捨ては、もういい加減にやめた方がよい。これはホテル業界全体で取り組んでほしい問題だ。レジ袋やストローだけが問題なのではないと思う。

18:00頃、取材班が入浴した時はなぜか入浴者はゼロ。宿泊者はまだまだ外で遊んでいる時間帯なのだろうか。

浴室はいたってシンプルだ。洗い場が3か所あり、定員10人程度の浴槽が1つあるだけである。それでも客室の狭いユニットバスを利用するよりは全然良い。

洗い場にはシャンプー、コンディショナー、ボディーソープが具備されている。カランの水圧は申し分ない。浴槽の湯はややぬるめで、熱い湯が苦手であろう外国人にも優しい温度だ。

室内の内装は石貼りを基調とした落ち着いた雰囲気である。浴槽の横には坪庭も見える。日本人の風呂にかける思いと美意識は尋常ではない。この坪庭は外国人にはそう映るに違いない。

明日は甲子園ボウルの観戦である。銭湯愛好会・東京支部の幹部メンバーが試合に出場するのである。試合がどのような結果になっても、そのような試合の場に立てることはかけがえのないことである。それを目撃する我々もまた、同じだ。

試合前の程よい緊張感を、このホテルの風呂はやさしく包み込んでくれた。いざ出陣。

DATA

名称	くれたけイン大阪御堂筋本町
所在地	大阪府大阪府中央区北久宝寺町 3-4-8
電話	06-6251-0311
営業時間	5:00~9:00、17:00~23:00
定休日	無休
入浴料	宿泊者は無料
サウナ	なし
サウナ内のテレビ	なし
取材日	2018年12月15日(土)
取材	銭湯愛好会東京支部